

豊、和田映子、近藤康人、柳原行義、鳥居新平；食物アレルギーのアウトグローと消化酵素産生能—Pepsin 処理 ovomucoid によるサイトカイン産生—、第 13 回、日本アレルギー学会春季臨床集会、横浜、2001、5 月 10 日～12 日
 2) 山田一恵、宇理須厚雄、各務美智子、森田豊、寺西映子、近藤康人、柘植郁哉、柳原行義、鳥居新平、鶏卵アレルギー寛解群と非寛解群との間での末梢血単核球の IL-4 と INF- γ 産生能の比較、第 51 回日本アレルギー学会総会福岡 2001、10 月 29 日-30 日

1. 知的財産権の出願・登録状況
 特になし

	inhibition% (%binding)	inhibitor					
		ニワトリ		アヒル		ウズラ	
		25%	50%	25%	50%	25%	50%
最良	A (2.14%)	10.0	16.0	200<	200<	200<	200<
	B (2.79%)	18.0	40.0	200<	200<	200<	200<
	C (1.21%)	8.0	16.0	200<	200<	80.0	200<
	D (0.97%)	8.0	16.0	200<	200<	200<	200<
	E (1.94%)	4.0	16.0	7.0	18.0	16.0	50.0

表中数字は、25%、50%inhibitionがかかるinhibitorの濃度 (μ g/ml) を示す。

Fig 3; ニワトリ、アヒル、ウズラの卵白の間の RAST inhibition

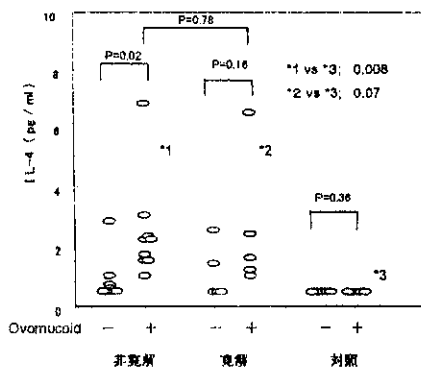


Fig 1; 末梢血単核球からの IL-4 産生 —非寛解群と寛解群との比較—

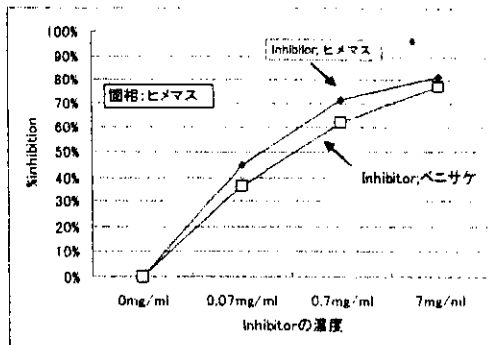


Fig 4; ベニマスとヒメマスとの間の RAST inhibition

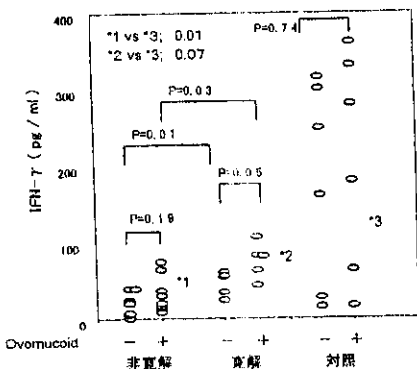


Fig 2; 末梢血単核球からの INF- γ 産生 —非寛解群と寛解群との比較—